

13

豊かで利便性に優れた暮らしづくり推進プロジェクト

概要

地域社会のデジタル化を進めることにより、県民一人ひとりが、希望するサービスやライフスタイルを自由に選択でき、暮らしの豊かさや地域の活力を実感できる取組を推進する

また、都市公園の新たな利活用、生活交通の維持や充実、空き家対策、利便性・安全性の高い道路網の整備等により、快適で住みやすい環境づくりの取組を進める

重点施策

44 豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現

45 快適で住みやすい生活環境づくりの推進

(1) 成果指標の状況

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★ (目標を達成)		
★★★★ (計画を上回る)		7	Y-BASE における課題解決件数、光ファイバの世帯カバー率 等
★★★ (ほぼ計画どおり)		1	国道・県道の整備完了延長
★★ (計画を下回る)			
★ (計画から大幅に遅れ)		1	オンライン利用率 (県関係手続)

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらでもない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	暮らしを支える生活道路の整備や都市公園の利活用など、快適な生活環境づくりの取組が進んでいると思いますか。	30.4	39.0	29.0
	行政手続のオンライン化など、デジタルによって社会や暮らしを便利にするための取組が進んでいると思いますか。	25.7	46.0	26.7

(3) 主な取組と成果

主な取組と成果	◆豊かさと幸せを実感できるデジタル社会の実現
	○ やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」 で、分析ツールを用いた交通事故データの可視化や Web 予約システムの実装等の支援を実施し、154 件の課題を解決した。また、AI (人工知能) の利活用による業務変革や新事業創出の推進に向け、生成 AI アカウント貸出による実証環境の提供やコンサルティングによるハンズオン支援など、 Y-BASE において生成 AI の利活用支援を加速 。
	○ 官民連携の デジタルコミュニティ「デジテック for YAMAGUCHI」 における共創活動を通じた課題解決の取組を促進。 (事例) 獣害マッププロジェクト、フードバンク「ありがとう Web サイト」開発 等
	○ AI やデザイン思考など DX 創出に必要な技術・スキルを習得する実践的研修 を実施し、行政・企業等の内部で DX を推進することができる人材の育成・確保を推進 (デジタル技術を活用できるリーダー人材の育成人数 170 人)。
	○ 「 山口県デジタル実装推進基金 」を活用して、子育て環境の充実や AI を活用した教育支援、産業分野の業務効率化など、県民の生活実感の向上等に繋がる デジタル実装の取組を集中的に実施 。
	○ 「 やまぐち情報スーパーネットワーク(YSN) 」について、今後の有効活用に向けた機能強化等の検討を行い 更改を進める とともに、 県立高校の SINET 接続 を実現。
○ オンライン手続きについて、 誰もが簡単・便利に 検索できる「やまぐちオンライン手続総合案内サイト」を開設し、利用の促進を図った。	

- やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」に設置の、市町のデジタル・ガバメントに関する専用の相談窓口(**デジタル・ガバメント構築支援窓口**)に対して受けた市町からの141件の相談に、チャットツール、オンライン面談、Y-BASEや現地での面談等により回答。(R5年度)
- 書かない窓口の導入、マイナンバーカード利活用、オープンデータの整備等のデジタル・ガバメント構築に向けた主要課題に関することや、住民の利便性向上や業務効率化に資する新たなデジタルツールに関することについて、**勉強会・セミナーを開催**。(R5年度)
- 書かない窓口の導入、マイナンバーカード利活用、オープンデータの整備等の各市町における現状分析や施策設計など、**目に見える行政サービスの創出に向けたデジタル実装**の伴走支援を実施
- 総合交通センター等に出向かずに、スマートフォン等で更新時講習の受講ができる「**優良運転者オンライン講習モデル事業**」の対象者を令和5年10月から一般運転者にも拡大
対象者のうち優良運転者では約23%にあたる18,790人、一般運転者では約33%にあたる2,159人が利用(R5)
- 「**出張型運転免許手続**」を山口市阿東地域において月1回実施
免許更新手続きや安全運転相談など延べ88人が利用(R5)

◆ 快適で住みやすい生活環境づくりの推進

- 暮らしやすいまちづくりを支援する道路環境の整備
 - ・各都市間の広域的な交流・連携に資する道路や、日常生活の利便性・安全性の向上に資する道路等の整備を着実に推進
国道・県道の整備完了延長：17.3km(R4~R5年度)→目標：50km(R4~R8年度)
 - ・通学路等の生活空間における歩道整備や交差点の改良などの交通安全対策を着実に推進
通学路合同点検に基づく交通安全対策完了率88%(R5年度)→目標：100%(R4~R8年度)
- 交通空白地における持続的な移動手段の確保に向けて、**AIデマンド交通など、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスの導入**を目指す9市を支援。
- 公共交通の利便性向上を図るため、路線バスへの**交通系ICカードの導入**を促進。
県内路線バス車両の約9割で導入済(令和5年度末)
- **県内ローカル線の活性化**や鉄道利用の機運醸成に向け、市町、JR西日本、国及び県の関係者による連絡会議を開催し、ローカル線の現状や利用促進に向けた取組の状況など様々な情報共有や意見交換等を実施
- 安全な道路交通環境を確保する交通安全施設の整備促進
LED式信号機の整備率83.6%(R4年度)→86.3%(R5年度)

(4) 総評

総評

Y-BASEを核としたDXの推進やDX推進に必要な人材育成などを通じて、様々な主体のデジタルを活用した課題解決の取組が進むとともに、「山口県デジタル実装推進基金」を活用したデジタル実装に向けた取組が着実に進んでいるが、社会や暮らしが変わったと県民が真に実感できるよう、取組のさらなる促進が求められている。

(5) 課題と今後の展開方向

課題と今後の展開

◆ 豊かさを実感できるデジタル社会の実現

- 多くの県民の皆様が、デジタルによって社会や暮らしが変わったと真に実感できるよう、「山口県デジタル実装推進基金」を活用したデジタル実装の取組の更なる拡大を図るとともに、自動運転技術など先進技術の導入やデジタルによる中山間地域等の暮らしの充実など、人口減少に伴う地域の社会課題の解決に向けて、実装ハードルの高い取組にも積極的に挑戦し、その取組モデルを県内に普及していく必要がある。

- 令和6年度末にかけて予定されている「オンライン講習モデル事業の全国展開」や「運転免許証とマイナンバーカードの一体化」など、運転免許手続きにおけるデジタル化の確実な実現に向け、全国共通システムの整備や自動申請受付機の導入を計画的に推進することが必要である。
 - 県民ニーズの高い「運転免許証即日交付施設の拡充」に向けて、施設の改修や機器類の整備、免許窓口の合理化などを計画的に進めるほか、県民の利便性を損なうことがないよう中山間地域等で実施している「出張型運転免許手続」の柔軟な運用が必要である。
 - 歩行者や自転車利用者等を交通事故から守る対策の促進や、バリアフリー化が必要である。
- ◆**快適で住みやすい生活環境づくりの推進**
- 快適な生活環境の充実を図るため、利便性・安全性の高い道路網を整備していく必要がある。
 - 歩行者や自転車利用者等を交通事故から守る対策の促進や、バリアフリー化が必要である。
 - 交通空白地における持続可能な移動手段の確保に向け、A I デマンド交通等、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスの導入を加速化することが必要である。
 - また、沿線住民の日常生活や地域の経済活動、観光振興などに重要な役割を担っている地方ローカル線の維持・確保に向け、沿線市町等と一層の連携の下、利用促進など路線の活性化に向けた取組が必要である。
 - 信号柱の更新スピードを加速するとともに、省エネルギー効果が高いL E D式信号機の整備を促進する必要がある。

(参考) 令和6年度の主な新規・拡充取組

拡 やまぐちDX加速化事業

デジタル人材のすそ野拡大に向け、eスポーツを入口として、若者がデジタルについて「楽しみながら学ぶ」ことができるデジタルリテラシー向上講座や交流促進イベントなどを実施

新 AIトランスフォーメーション推進事業

県内企業・団体等の生成A I活用のサポートや中核人材育成を通じて、A Iの利活用による業務変革を推進

新 スマート社会実現プロジェクト推進事業

若者にとって魅力を感じ、暮らしやすく、住み続けたいと思うスマート社会を実現するため、自動運転技術などの未来をデザインする先進的なデジタル技術の実装を推進

新 やまぐち情報スーパーネットワーク機能強化事業

Y S Nについて、県内大学・県立学校等での教育環境の充実及び自治体におけるガバメントクラウド接続等、さらなるデジタル化の進展を見据え、通信容量・通信速度の向上等の機能強化を実施